



いわて医療通信【腎臓を長持ちさせるには】

6. 透析をいかに

受け入れるか②



学会ホームページ
(2020 年版)

今回は、具体的な透析方法について述べます。

血液透析は、医療スタッフによって血管に毎回2本針を刺して血液を体の外に出し、透析の機械を通して浄化するという治療法です。週3回通院し、1回4時間

程度の治療が必要となります。事前に腕の血管を手術して「内シャント」という専用の血管に作り変えます。

1日24時間絶え間なく働いている腎臓の働きを、血液透析の場合は1回4時間程度という短時間で肩代わ

りするために、体内の環境が急激に変化し、それを負担に感じる方もなかにはいます。

腹膜透析は事前に専用のチューブを開腹手術でお腹に埋めておきます。そのチューブを使って専用の透

析液2ℓ程度をお腹の中に溜め、1日4回程度透析液の交換を行う治療法です。透析液の交換は1回30分程度かかりますが、交換をしながら許される範囲で自由に過ごすことができます。

腹膜透析は毎日行う治療法

ですので、血液透析に比べると体の変化が極めて穏やかです。自宅で行う治療ですので、通院は月1回程度です(診察と、透析薬剤・資材の処方を受けるための通院)。ただし、毎回の腹膜透析を自身で、もしくはご家族によって能動的に行わなければなりません。

その他、腎代替療法それぞれの利点・欠点について

は、日本腎臓学会など5学会合同で作成され、毎年改訂されている冊子が当科外来や学会ホームページから得ることができますので、ぜひご覧いただき、ご自分に合った方法を医師と相談しましょう。

近年は長寿社会となり、学会の最新の統計(2020年)でも、透析を新規に始められる方の平均年齢は約71歳と年々高齢化しています。

CKDが進行しないことが一番ではありますが、本邦の透析技術は世界最高峰ですので、透析が必要になっても安心して歩んで参りましょう。

岩手医科大学

医学部内科学講座

腎・高血圧内科分野

講師 吉川和寛